

2025 陸上競技ダイジェスト

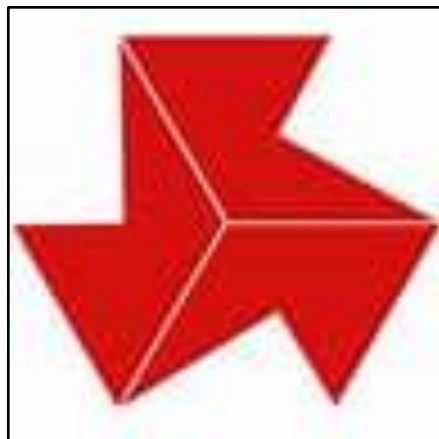
「第 78 回兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会」

5 月 30 日(金)～6 月 1 日(日)

ユニバー記念競技場

兵庫県高体連陸上競技部 広報委員会

全国高体連のマーク



K R A F T…**力**

K U N S T…**技**

K L A R H E I T…**明朗な精神**

マークの由来…ドイツ語の 3 つの K の頭文字をとったもの。「**若い力**と**わざと明朗な精神**」を象徴し、真紅の色彩は「**高い理想**」と「**希望に燃える若人の情熱**」を象徴している。



広島で開催される「開け未来の扉中国総体 2025～輝け君の青春 刻め努力の軌跡～」インターハイ(以下、IH)の出場資格を懸けて、各地区予選会を勝ち抜いた選手たちがそれぞれの想いを胸に本大会に臨んだ。初日は曇り空。風も穏やかで非常によいコンディションの中、競技が行われた。女子 100mH 準決勝で、井上風紗(滝川第二 3)が 13 秒 31 の日本高校新記録を樹立。決勝では記録を伸ばすものの惜しくも追い風参考記録であったが、13 秒 13(+2.1)で見事優勝し、優秀選手に選ばれた。近畿地区予選会と IH での更なる活躍が期待される。男子走高跳では織邊亘(小野 3)が 2m09 をマークし、18 年ぶりとなる大会新記録を樹立した。2 日目以降は晴天に恵まれた。男子 4×400m リレーで滝川第二が近畿高校記録に迫る 3 分 08 秒 88、男子 5000mW で山田大智(西脇工 3)が 20 分 26 秒 72、女子七種競技で本多七(園田学園 3)が今年の記録を更新する 5278 点で大会新記録を樹立するなど、3 日間で日本高校新記録が 1 つ、大会新記録が 15 つ、大会タイ記録が 4 つ誕生した。

男子総合は、社が 4 大会連続 13 回目の優勝(110 点)。滝川第二が 2 位(92 点)、西脇工業が 3 位(73 点)であった。女子総合は、滝川第二が 2 年ぶり 3 回目の優勝(81.5 点)。園田学園が 2 位(78.5 点)、山手が 3 位(71 点)であった。

【男子総合優勝】社(110 点)(参加校数 149 校、参加人数 1530 人)

まず男子総合優勝連覇を達成することができて嬉しく思います。目指す目標は人それぞれでしたが自分の競技に真剣に向き合いチーム 1 人 1 人の努力の結果、総合優勝という結果に繋がったと思います。近畿総体ではレベルの高い争いになると思いますが 1 人でも多く全国の舞台に出場し、チーム全体としての目標である全国総合優勝を達成できるように試行錯誤を繰り返しながら頑張っていきます。応援よろしくお願いいたします。(三木隆之介)

【女子総合優勝】滝川第二(81.5 点)(参加校数 122 校、参加人数 962 人)

今回は「総合優勝」を目標に臨んだ試合でした。1 日目からハードルなどの種目で良い流れができ、3 日間全員で頑張ることができました。去年は総合優勝することができず、私たちが 3 年生の代では必ずしようとみんなで話していました。2 年ぶりにまた優勝旗を頂けたことがとても嬉しいです。来年も頑張ってもらいたいです！(東馬場杏咲)

【男子優秀選手】山田大智(西脇工 3)

今大会は、目標としていたタイムには程遠いタイムとなりましたが、近畿インターハイに繋がる良いレースができたと思います。久しぶりの試合ということもあり、緊張しましたが、自分のレースができたと思います。また、今回優秀選手に選ばれたことに感謝し、近畿インターハイではもっと記録を伸ばせるように頑張ります。

【女子優秀選手】井上風紗(滝川第二 3)

今大会に向けた練習での取り組みは、抜き足を素早くもってくこととインターバルを刻むリズムも早くすることを意識しながら練習をしたことです。予選と準決の時後輩にタイムを抜かされてしまいとても焦っていたのですが、絶対に抜かされたくない負けたくないという気持ちがあり練習してきたことを意識して走りました。決勝は隣にスタートが速い後輩がいて少し心配な部分もありました。でも前半は負けと思っていたので私の得意な後半で勝負しようと思っていました。そうするとラスト 2 台くらいで抜かせたので安心しました。そして高校新記録、大会新記録などを出すことが出来て嬉しかったです。

<1 日目トラック>

女子 1500m では、昨年度全国 IH 入賞者の池野絵莉(須磨学園 3)がスタートから抜け出して 400m を 1 分 08 秒と大会記録のペースで通過し、二連覇を達成。2 位集団は予選トップ通過の山本心愛(西脇工 3)が先頭を引っ張り、金子聖奈(須磨学園 3)に先頭を譲るも再び先頭に立ち、後続を引き離してフィニッシュした。大会記録に迫る 3 分 48 秒 06 の PB を持つ新妻遼己(西脇工 3)と、昨年度 1 年生ながらこの種目を制覇し全国 IH に出場した梅田大陸(須磨学園 2)の争いが予想された男子 1500m。スタート後新妻がトップに立ち、400m を 58 秒と日本高校記録を狙えるハイペースで通過し、梅田・東海成(須磨学園 2)が続いた。新妻は大会記録には届かなかったが、西脇工業勢 3 年ぶりの制覇となった。

日本高校新記録が誕生した女子 100mH。予選から福田花奏(滝川第二 1)が大会記録を更新し、準決勝では福田が大会記録、二階堂咲(山手 2)が大会タイ記録、井上風紗(滝川第二 3)が日本高校記録を塗り替えるハイレベルなレースが繰り広げられた。更なる記録更新が期待された決勝は、スタートとともに抜け出した福田を 6 台目のハードルで井上が捉え、追い風参考ながら 13 秒 13(+2.1)の好記録をマークし 1 年生から続く県大会三連覇となった。大会タイ記録、大会新記録が誕生した男子 110mH では、今西瑛大(豊岡 3)と村田隼(社 3)が激しい闘志のぶつかり合いを見せた。レースを先行した村田を今西が 6 台目のハードルで捉え、ゴール手前まで並走。一歩抜け出した今西が 14 秒 21 の大会新記録で優勝し、豊岡勢 42 年ぶりの優勝を飾った。僅差で 2 位となった村田は 14 秒 22 の大会タイ記録であった。

【男子 110mH 大会新記録】今西瑛大(豊岡 3)

今大会は、大会新記録を更新し、14 秒 1 台で優勝することを目標にしていました。予選はリラックスして走り、準決勝と決勝でタイムを狙っていこうと考えていました。決勝では大混戦の中、少し力みましたが勝つことができて自信がつけました。このまま調子を上げ 13 秒台を出したいです。

昨年度近畿ユース大会覇者の幸長愛美(姫路女学院 2)と東馬場杏咲(滝川第二 3)が出場した女子 400m。予選・準決勝ともにトップで通過した幸長が決勝でも積極的なレースを展開した。後半、東馬場が追い上げるも幸長は一度も先頭を譲らずに 55 秒 31 の好記録でフィニッシュし、姫路女学院勢この種目初の制覇となった。昨年度 2 年生ながら全国 IH 入賞を果たし、U18 大会 300m を制覇した久保拓己(滝川第

ニ 3)に注目が集まった男子 400m。レースの前半は黒田悠希(姫路商 2)が快走したが、ラスト 200m でギアを切り替えた久保が接戦を制した。また、後半伸びのある走りを見せた興ノ釉祐(三田 3)が 48 秒 23 で 2 位に入った。

<1 日目フィールド>

男子棒高跳では、4m20 から競技を開始した山田睦明(明石商 3)と杉本惺昭(同 3)が 4m60 を 1 回目でクリアし、同校対決へ。山田が PB である 4m70 を 2 回目でクリアし、見事優勝。明石商業勢この種目 14 連覇を達成した。男子走高跳では、リレーカーニバルで優勝した織邊亘(小野 3)が 2m00 を 2 回目でクリアして優勝を決めると、バーを 2m09 にあげて見事 3 回目でクリア。小野勢 74 年ぶりの優勝を大会新記録で飾った。藤井洸太郎(社 1)、福井大和(三田祥雲館 3)はともに 1m97 を 1 回目でクリアして表彰台を決め、試技数差で藤井が勝利した。

【男子走高跳大会新記録】織邊亘(小野 3)

今大会は不調の中での試合となりました。この大会の 5 日程前原因不明の腰痛におそわれ、前日ですらまともな調整ができていないような状況でした。そんな中なんとか 2m を跳んで優勝し、やってみるか、と言う軽いノリで自己ベストプラス 3 センチで大会新記録の 2m09 に挑みました。ベストに挑む時大抵助走で力んでバーに突っ込むのがオチですがそこで落ち着いて助走に入れたことが成功に繋がったのかなと思います。この記録が一発屋で終わらないようこれからも頑張ります。

三浦千陽(明石商 2)と升元絢菜(同 3)の一騎打ちとなった女子棒高跳。三浦が 3m65 を 2 回落とす中、升元は 3m65 を 1 回目でクリア。三浦は 3 回目の試技をパスして 3m70 に挑戦すると、ここ一番の粘り強さを発揮して見事 1 回目でクリアした。三浦は升元との接戦を制し、3m75 で優勝した。女子走幅跳では、昨年度 4 位入賞の実績を持つ岡蒼依(小野 2)が、風が変わる中 5m60 台の安定した跳躍を披露し 5m69 で優勝。小野勢この種目初優勝となった。加茂莉奈(滝川第二 1)は 1 年生ながら 3 回目に 5m55 をマークし 2 位、佐藤舞奈(園田学園 3)は 1 回目に 5m48 をマークし 2cm 差で 3 位に入った。

昨年度県大会及び県ユース大会の覇者である清水蓮大(社 3)を中心とする社勢の活躍が注目された男子ハンマー投。清水は 1 投目から PB を超える 62m27 をマークすると 5 投目には 63m15 と記録を伸ばし、二連覇を決定づけた。水野光(社 2)は 3 投目に 56m53、蕭理恩(社 3)は 4 投目に 55m27 をマークするなど社勢が安定した投擲を見せ、大会史上 47 回目となる表彰台独占を果たした。女子ハンマー投では、各地区予選会で唯一 50m に迫る記録を持つ長谷川茜音(加古川北 3)が 1 投目から 49m07 の好スタートを切ると、6 投目で記録を更新。大会記録に迫る投擲を披露するなど他の選手を寄せ付けない圧倒的な強さで優勝に輝き、連覇を果たした。4 投目に 39m87 を投げた中山愛香(姫路商 3)が 2 位、同じく 4 投目に 39m76 を投げた小川まひる(須磨東 2)が 3 位に入った。

男子砲丸投では、昨年度覇者の宇都篤基(西宮今津 3)と 2 位の小河琉(社 3)の熾烈な戦いが繰り広げられた。小河が 4 投目に 16m19 をマークしトップに立つと、5 投目で 16m65 をマークし更に記録を伸ばした。宇都は 6 投目に 16m24 をマークしたが逆転に及ばず、小河は昨年度 4cm 差で敗れた屈辱を晴らし、見事優勝に輝いた。混戦となった女子やり投げ。本田七(園田学園 3)が 1 投目に 42m69 をマークし、昨年度覇者の実力を発揮。本田は二連覇を達成した。4 投目以降、他の選手が記録を伸ばせず苦戦する中、稲田桃子(神戸科技 3)は 5 投目に 40m13 をマークし、大幅に記録を更新して 2 位に入った。

<2日目トラック>

男子 3000mSC では、スタート直後に徳山博貴(市西宮 3)と梅本陸翔(須磨学園 3)が先頭に立ち、佐伯優月(西脇工 3)、中道琉惺(西脇工 3)が続く。徳山は 1000m を 2 分 55 秒とハイペースでレースを展開すると後続を引き離し、8 分 58 秒 72 でフィニッシュ。1997 年 50 回大会以来 28 年ぶりとなる 8 分台で市西宮勢この種目初制覇を飾った。

400m のチャンピオン幸長愛美(姫路女学院 2)が 200m でも快走。山野麻緒(明石北 2)、松岡愛菜(山手 3)を抑えて 24 秒 17(+3.4)で勝利し、400m と合わせて 2 種目制覇を果たした。また、この種目、姫路女学院勢初制覇を達成した。男子 200m では、山本柊希(滝川第二 3)が久保拓己(同 3)と三木隆之介(社 3)の追従を許さず、昨年度樹立された大会記録を上回る 21 秒 16 で優勝。大会記録を更新し、滝川第二勢この種目三連覇を達成した。久保が三木との戦いを 0.01 秒差で制して 2 位、三木が 21 秒 40 で 3 位に入った。

【男子 200m 大会新記録】山本柊希(滝川第二 3)

僕は、去年この兵庫インターハイに出場したが腰の故障によって良い走りが出来ずに準決勝で落ちてしまい悔しい結果で終わってしまいました。来年は絶対に優勝してやるって思いがあって冬の練習も辛かったけど必死に頑張った結果、今回の 200m で大会新記録と優勝を飾れました。

女子 400mH では、昨年度県ユース覇者の家氏美和(姫路飾西 2)が実力を発揮して予選・準決勝をトップ通過。決勝でもスムーズなハードリングを見せ、1 分 01 秒 49 で見事優勝を果たし、姫路飾西勢にこの種目初優勝をもたらした。奥谷紗良(須磨東 2)が 1 分 03 秒 69 で 2 位、青木花梨(市尼崎 3)が 1 分 04 秒 54 で 3 位に入った。昨年度近畿ユース覇者の佐野悠真(明石清水 2)、3 位の平岡大輔(滝川第二 2)、昨年度県ユース覇者の森田朔空(姫路商 3)が出場した男子 400mH 決勝。森田が積極的にレースを引っ張ったが、予選・準決勝とトップ通過した平岡が残り 100m を過ぎた辺りで先頭に立ち、そのまま駆け抜け 52 秒 00 で優勝した。2 位の森田は 52 秒 22 であった。

女子 4×100m リレーでは、ややリードしていた滝川第二を第三走者の松岡愛菜(山手 3)、幸長愛美(姫路女学院 3)が追いかけて、ほぼ同時にアンカーにバトンパス。準決勝で 46 秒 38 の大会新記録を樹立した山手を滝川第二が抑え、46 秒 24 の大会新記録で勝利した。姫路女学院が山手に 0.02 秒差で競り勝ち 2 位、山手が 3 位であった。準決勝で 40 秒 44 の大会新記録を樹立した社と、滝川第二の接戦が予想された男子 4×100m リレー。ほぼ同時にアンカーにバトンが渡り、アンカー勝負となった。200m 覇者の山本柊希(滝川第二 3)が競り勝ち、王座奪還を果たした。

【女子 4×100m リレー大会新記録】滝川第二

兵庫リレーカーニバルに引き続き優勝と大会新記録を出すことが出来てとても良かったです。

ですが、多少のバトンミスなどもあったので近畿インターハイまでに修正をして兵庫記録の更新と 45 秒台を目指して頑張っていきたいです。(中島朋香)

<2日目フィールド>

近畿大会出場資格を懸けた白熱した戦いが繰り広げられた女子走高跳。1m56 を一回目でクリアした北浦衣麻(滝川第二 1)と升元絢菜(明石商 3)が試技数差で出場資格を獲得した。優勝した井上凧紗(滝川第二 3)は 4×100m リレーに出場した直後に関わらず 1m62 まで全て一回でクリアし、1m68 の PB で優勝。100mH、4×100m リレーと合わせて 3 種目制覇を達成した。

男子走幅跳は、予測不能な風の中競技が進行された。河旺佑(鳴尾 2)が 1 回目に 7m22(+2.5)をマークしてトップに立つと 4 回目で 7m23 と更に記録を伸ばし、鳴尾勢この種目初優勝を果たした。藤本駿希(市尼崎 3)は 6 回目に 7m15(+3.8)をマークして 2 位に浮上。昨年度県ユース覇者の平川靖士(滝川第二 3)は 6 回目に 7m14 をマークして記録を伸ばしたが、一步及ばず 3 位であった。

女子円盤投では、松浦実音(須磨東 2)がランキング通りの投擲を披露し、昨年度覇者の安井理央(明石商 3)を抑えて須磨東勢この種目初優勝をもたらした。安井は 2 投目に 35m42 をマークし 2 位、谷河梢(同 2)は 35m17 をマークし 3 位であった。石田羽音(日ノ本 1)も 35m17 をマークしたが、セカンド記録で谷河が勝利した。男子やり投では、杉下佳友紀(伊川谷北 3)が 3 投目に PB に迫る 59m37 をマークし、4 投目に 59m43 と記録を伸ばし伊川谷勢この種目初優勝をもたらした。岡本智輝(姫路工 3)が最終投擲で 58m34 をマークして 2 位、昨年度県大会で杉下と接戦を繰り広げた田村耀生(淡路三原 3)が 56m00 で 3 位であった。

男子八種競技では、織田要(滝川第二 3)が 7 種目終了時点で PB を更新する勢いで競技を進め、2 位に 500 点差以上つけた 5682 点で圧勝。滝川第二勢この種目三連勝を達成した。スプリント種目で織田に勝利した小西拓実(明石北 2)が 5158 点で 2 位、有末貫汰(加古川西 3)が 5140 点で 3 位に入った。

<3 日目トラック>

男子 5000mW では、昨年度全国 IH2 位、国民スポーツ大会優勝の実績を持つ山田大智(西脇工 3)が 1000m の通過タイム 4 分台の安定した歩きで、11 年ぶりとなる大会新記録で二連覇を達成した。2 位グループは大きな集団でレースが展開され、先頭を引っ張った大崎壮真(市西宮 3)が 2 位、桑原路太郎(西脇工 2)が 3 位であった。また、近畿大会出場資格を懸けた白熱した戦いは、辻那悠太(市西宮 2)と原田壮馬(西脇工 2)が残り 1000m でスパートを掛け合い、辻が 2 秒差で制した。

女子 3000m では、昨年度全国 IH 入賞者である池野絵莉(須磨学園 3)が先頭に立ち、400m の通過は 1 分 07 秒と積極的な走りを見せ 9 分 19 秒 72 でフィニッシュ。2 年連続 1500m と合わせて 2 種目制覇を達成した。また、種知里(同 3)が 2 位、金子聖奈(同 3)が 3 位に入り、同校 3 年生が大会史上 48 回目となる表彰台独占を成し遂げた。

女子 800m では、大きな集団のまま 400m を 1 分 07 秒で通過。昨年度全国 IH 出場者の東はる(須磨学園 2)と 1 年生の藤井志帆(園田学園)が残り 300m で抜け出すと、東が逃げ切り 2 分 11 秒 83 でフィニッシュ。二連覇を達成した。藤井は 2 分 12 秒 79 で 2 位であった。男子 800m では、ランキングトップの三枝琥珀(西脇工 3)がスタート直後から先頭に立ち、400m を 54 秒で通過し後続を引き離した。後半、福嶋颯海(県伊丹 3)と豊村宏太(明石清水 3)が追い上げたが三枝が逃げ切り、西脇工業勢この種目 10 年ぶりとなる優勝をもたらした。

男子 5000m では、地区予選会で今大会の大会記録を上回る記録をマークした新妻遼己(西脇工 3)がスタート直後から先頭に立ち、先頭を一度も譲らずに 14 分 07 秒 33 でフィニッシュ。この種目二連覇、1500m と合わせて二種目制覇を達成した。また、赤坂勇輔(同 3)が 14 分 20 秒 23 で 2 位に入った。

女子 5000mW では、昨年度県ユース大会 2 年生の部覇者の尾崎妃夏(須磨学園 3)と、1 年生の部覇者の逢坂ひかり(市西宮 2)が先頭争いを繰り広げながらレースが進んだ。尾崎が抜け出すとそのままフィニッシュし、須磨学園勢 22 年ぶりの制覇となった。逢坂は 2 位、昨年度県ユース大会 2 年生の部 2 位の芝村悠里(県尼崎 3)は 3 位であった。

女子 100m では、準決勝で 11 秒 82 の大会タイ記録をマークした谷愛菜(園田学園 3)と福田花奏(滝川第二 1)の優勝争いが予想された。谷がスタート直後から一歩リードし、11 秒 98 の好タイムで園田学園勢 10 年ぶりの勝利をもたらした。福田は 2 位、権藤百合子(姫路女学院 3)が 3 位に入った。

【女子 100m 大会タイ記録・女子 100mH 大会新記録】福田花奏(滝川第二 1)

自分でも大会タイ記録である 11 秒 82 が出せると思っていたなかったので嬉しかったです。強い先輩と競えたことがいい経験になりました。近畿、全国インターハイに向けて 100m の走力をハードルに活かせるように頑張りたいです。

男子 100m では、準決勝 2 組でハイレベルなレースが展開され、古今堂辰弥(関西学院 2)と田畑開(滝川第二 3)がともに大会新記録を樹立。古今堂が決勝でも快走し、昨年度県大会入賞者の田畑・山田吾愛(社 3)、昨年度近畿ユース大会 3 位の大浦文太(明石清水 3)との接戦を 10 秒 67 で制し、関西学院勢この種目 21 年ぶりの制覇となった。山田が 10 秒 70 で 2 位、大浦が 10 秒 72 で 3 位に入った。

【男子 100m 大会新記録】田畑開(滝川第二 3)

予選のアップの時に新しい感覚をつかめて、タイムが出るか不安でしたが予選から流して 10 秒 66 が出て準決勝で大会新の 10 秒 62 が出せてとても嬉しかったです。ですが、決勝では 4 位と最後まで勝ちきれなかったのが、近畿では決勝まで勝ち切れるよう残りの期間練習を積みたいと思います。

女子 4×400m リレーでは、昨年度ユース大会覇者の姫路女学院、2 位の滝川第二、3 位の山手がしのぎを削った。第 1 走者で先行した滝川第二を姫路女学院の岩崎優菜(3)がかわし、姫路女学院がそのまま逃げ切り 3 分 48 秒 09 でフィニッシュ。初優勝を達成した。山手は 3 分 51 秒 24 で 2 位、滝川第二は 3 分 52 秒 35 で 3 位。男子 4×400m リレーでは、準決勝で大会記録に迫る 3 分 13 秒 08 をマークした滝川第二が第 1 走者から他を寄せ付けず、3 分 08 秒 88 の大会新記録で優勝し、二連覇を達成した。また、姫路商業と三田が攻防を展開し、0.07 秒差の 3 分 16 秒 41 で姫路商業が競り勝った。

【男子 4×400m リレー大会新記録】滝川第二

個人種目では納得のいく記録を出すことができなかったのが、マイルリレーは大会記録、学校記録の更新を目指して走りました。1 走から 3 走まで良い流れで繋いできたバトンを受け取ったので、「あとは任せろ！」という気持ちで走り切りました。このタイムに満足せず、チームの通過点として、全国優勝と日本高校記録の更新など、まだまだ高みを目指して頑張りたいと思います。(久保拓己)

<3 日目フィールド>

女子三段跳では、阿尾優葉(明石西 2)がランキング通りの安定した跳躍で優勝し、明石西勢この種目初制覇を達成した。魚住芽生(赤穂 3)が 6 回目に 11m48 をマークし近畿大会出場圏内に入ると、鈴木琴水(山手 3)と田井里奈(明石北 3)も 6 回目に記録を伸ばし、近畿大会出場資格を獲得した。男子三段跳では、昨年度全国 IH 出場、U18 優勝の実力者である磯山福太郎(西宮東 3)が 1 回目に 14m62(+2.2)をマーク。6 回目ですらに 14m93 まで記録を伸ばし、二連覇を達成した。昨年度県ユース大会覇者の中島梓太(社 2)が 14m60 で 2 位、同じく 2 位の板野結希(滝川 2)が 14m56 で 3 位に入った。

女子砲丸投では、1 年生で唯一決勝に進出した執行琴葉(社)が 2 投目に PB を超える 11m16 をマークしトップに。昨年度県大会入賞者の小南結(長田 3)・安井理央(明石商 3)も好記録をマークしたが、執行

がトップの座を譲らず社勢この種目初制覇を達成した。男子円盤投では、近畿大会出場資格を懸けた激しい争いが繰り広げられた。西岡蒼留(神戸第一 2)が 2 投目に 42m36 をマークし、観客の手拍子を受けた 6 投目に 42m84 まで記録を伸ばし見事優勝。4 投目に 41m73 をマークした浅野晁汰(明石商 3)が 2 位、5 投目に 40m69 をマークした北原颯将(社 1)が 3 位に入った。

女子七種競技では、昨年度全国 IH 覇者の本田七(園田学園 3)が常にトップの記録をマークし、自身が樹立した大会記録を上回る 5278 点の大会新記録で優勝した。また、大会史上男女合わせて 34 人目の同一種目 3 連勝を達成した。昨年度県大会入賞者の梅垣花菜(柏原 3)は 3991 点で 2 位、加茂冴奈(明石城西 2)は 3648 点で 3 位に入った。

【女子七種競技大会新記録】本多七(園田学園 3)

高校ラストのインターハイ、全国インターハイに出場できるようにそして近畿大会記録が出せるように頑張ります。また、お世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れず記録で恩返しできるように全力で楽しんでプレーします。